

湿度のおはなし

湿度とは？ 空気が水蒸気を含む度合い

相対湿度 空気が水蒸気を含むことができる上限に対して、どの程度水蒸気が含まれているか

絶対湿度 1 Kg の空気の中にある水蒸気の種類

皆さんがよく耳にする「湿度」は「相対湿度」になります。
気温 30℃、湿度 50% など天気予報でも聞かれますよね。
単純に空気の中に水分(水蒸気)が 50%(半分)含まれている これも正解です。
では、50%(半分)ってどれくらいの量なの??
30℃の 50%と 15℃の 50%ではどう違うのか？ 明らかに体で感じる不快は 30℃の 50%ではないですか。
そうです。実は「湿度」と「温度」には関連性があります。
では、簡単に説明いたします。

図 2 のジョッキとグラスで例えると分かりやすいです。
ジョッキを 30℃とします。 グラスを 15℃とします。
ジョッキの方がたくさん水が入りますね。
「湿度」とは「温度」が高いほど、たくさん水蒸気を含むことが出来るのです。
図 3 の湿り曲線図で分かるように、15℃と 30℃とでは、同じ 50%(曲線)の「相対湿度」でも空気中に含まれる水蒸気の種類「絶対湿度」には差があります。
夏、曇っていて太陽が出ていないのに暑く感じるとき。
冬、スキーに行ったときに気温は低いのにそれほど寒く感じないときがありますよね。
これは「湿度」が関係しています。

どうですか。「湿度」が高いと暑く(暖かく)感じるのです。「湿度」と「温度」の関連性を理解したうえで、室内環境を快適なものにしましょう。

相対湿度のイメージ



絶対湿度のイメージ

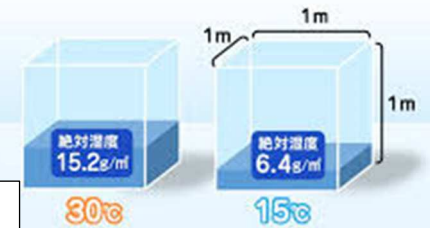


図 1

図 2

30℃



15℃



図 3

